

スルモノヲ除ク

一 工業労働者最低年齢法ノ施行ニ關スル事項

一 労働者災害扶助法ノ施行ニ關スル事項

一 鑛夫ニ關スル事項

一 鑛業、砂鑛業ノ勤勞衛生ニ關スル事項但シ體力管理ニ關スルモノヲ除ク

一 汽罐取締令ノ施行ニ關スル事項

一 商店法ノ施行ニ關スル事項

一 労働者ノ厚生ニ關スル事項

一 技能者ノ養成ニ關スル事項

一 幹部機械工ノ養成ニ關スル事項

一 技術者檢定及技能檢査ニ關スル事項

一 其ノ他勤勞力ノ保全増強及能率増進ニ關スル事項

給與課

給與課

一 賃金、給料其ノ他給與ニ關スル事項

一 退職積立金及退職手當法ノ施行ニ關スル事項

一 勤勞者ノ生計調査ニ關スル事項

保險局

健康保險課

一 健康保險法及職員健康保險法ノ施行ニ關スル事項

專項

一 健康保險特別會計及職員健康保險特別會計ニ關スル事項

一 他課ノ主管ニ屬セザル社會保險ニ關スル事項

船員勞災課

一 船員保險法ノ施行ニ關スル事項

一 船員保險特別會計ニ關スル事項

一 労働者災害扶助責任保險法ノ施行ニ關スル事項

項

一 労働者災害扶助責任保險特別會計ニ關スル事項

國民保險課

一 國民健康保險法ノ施行ニ關スル事項

一 國民健康保險法ノ施行ニ關スル事項

一 勞働者年金保險法ノ施行ニ關スル事項

一 勞働者年金保險特別會計ニ關スル事項

一 健康保險指導所

一 健康保險及職員健康保險被保險者ノ健康保持ニ關スル施設ノ調査並ニ指導ニ關スル事項

國民醫療法の一部施行期日の件公布

國民醫療法の公布については本誌第三卷第三號所報の如くであるが、その一部施行期日の件は昭和十七年十月二十八日付官報を以て左の如く公布せられた。

國民醫療法ノ一部施行期日ノ件

(昭和十七年十月二十七日勅令第六百九十四號)

國民醫療法第二條、第二章、第三章、第七十四條、第七十五條及第八十三條乃至第八十九條ノ規定並ニ産院、保健婦、助産婦及看護婦ニ關スル部分以外ノ第四章及第七十六條乃至第七十八條ノ規定ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

國民醫療法施行令の公布

國民醫療法の一部施行に伴ひ同法施行令は昭和十七年十月二十八日付官報を以て左の如く公布せられた。

國民醫療法施行令 (昭和十七年十月二十七日勅令第六百九十五號)

第一章 醫師及齒科醫師ノ免許

第一條 國民醫療法第四條ノ規定ニ依ル醫師ノ免許ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ與フ

一 大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立ノ醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者ニシテ一年以上診療ノ修練ヲ經タルモノ

二 醫師試験ニ合格シタル者ニシテ一年以上診療ノ修練ヲ經タルモノ

三 外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル帝國臣民ニシテ厚生大臣ニ於テ第一號ノ醫學專門學校醫學科ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有シ且適當ト認定シタルモノ

四 厚生大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ厚生大臣ニ於テ適當ト認定シタルモノ

前項第四號ノ規定ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ醫師ニ對シ試験ヲ要セズ醫師免許ヲ與フル國タルコトヲ要ス

醫師試験ハ左ニ掲ゲル者ニ非ザレバ之ヲ受ケルコトヲ得ズ

一 第一項第一號ニ該當セザル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二 外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ノ中第一項第三號又ハ第四號ニ該當セザル者ニシテ厚生大臣ニ於テ適當ト認定シタルモノ

第二條 國民醫療法第四條ノ規定ニ依ル齒科醫師ノ免

許ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ與フ

- 一 官立、公立又ハ文部大臣ノ指定シタル私立ノ齒科醫學專門學校ヲ卒業シタル者ニシテ一年以上診療ノ修練ヲ經タルモノ
- 二 齒科醫師試験ニ合格シタル者ニシテ一年以上診療ノ修練ヲ經タルモノ

三 外國齒科醫學學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル帝國臣民ニシテ厚生大臣ニ於テ第一號ノ齒科醫學專門學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有シ且適當ト認定シタルモノ

四 厚生大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル者ニシテ厚生大臣ニ於テ適當ト認定シタルモノ

前項第四號ノ規定ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ齒科醫師ニ對シ試験ヲ要セズ齒科醫師免許ヲ與フル國タルコトヲ要ス

齒科醫師ハ左ニ掲グル者ニ非ザレバ之ヲ受クルコトヲ得ズ

- 一 第一項第一號ニ該當セザル私立齒科醫學專門學校ヲ卒業シタル者
- 二 外國齒科醫學學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル者ノ中第一項第三號又ハ第四號ニ該當セザル者ニシテ厚生大臣ニ於テ適當ト認定シタルモノ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ醫師試験又ハ齒科醫師試験ヲ受クルコトヲ得ズ

一 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

二 聾者、啞者及盲者

第四條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者、醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニハ醫師試験又ハ齒科醫師試験ヲ受クルコトヲ許サザルコトアルベシ

第五條 本章ニ規定スルモノノ外醫師及齒科醫師ノ免許ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 科名專門ノ標榜

第六條 國民醫療法第十三條ノ規定ニ依ル科名專門ノ標榜ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ標榜セントスル科目ニ付相當ノ學識技能ヲ有スト認メラルモノニ之ヲ許可ス

一 免許ヲ受ケタル後十年以上診療又ハ醫學ノ研究ニ從事シタル者ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ診療ノ指導ヲ受ケタルモノ

二 前號ニ該當セザルモノ之ニ準ズベキ經歷ヲ有スル者

第七條 科名專門ノ標榜ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ厚生大臣ハ其ノ許可ヲ取消スモノトス

一 虛偽又ハ不正ノ事實ニ基キ許可ヲ受ケタル場合
二 引續キ科名專門ヲ標榜セシムルコトヲ不適當ト認ムル場合

第八條 本章ニ規定スルモノノ外科名專門ノ標榜ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 指定業務ノ從事命令
第九條 國民醫療法第二十二條ノ規定ニ依リ醫師又ハ齒科醫師ノ從事スベキ業務トシテ厚生大臣ノ指定ス

ルハ國、地方公共團體、日本醫療團又ハ厚生大臣ノ指定スル者(以下指定事業者ト稱ス)ノ行フ醫療及保健指導ニ關スル業務ニ限ル

第十條 厚生大臣國民醫療法第二十二條ノ規定ニ依リ從事命令ヲ爲サントスル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ定メ命令ヲ受クベキ者ニ對シ之ヲ爲ス

- 一 從事スベキ業務ノ内容及場所
- 二 從事スベキ業務ヲ行フ者ノ名稱又ハ名
- 三 從事スベキ期間
- 四 其ノ他必要ト認ムル事項

前項ノ命令ハ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方長官ヲシテ之ヲ通達セシム

第十一條 從事命令ノ取消、變更又ハ解除ニ付必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 從事命令ヲ受ケタル者業務ニ從事スル場合ニ於テハ國ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ長、地方公共團體ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該公共團體ノ長、日本醫療團ニ使用セラルル者ニ在リテハ日本醫療團總裁、指定事業者ニ使用セラルル者ニ在リテハ指定事業者ノ指示ニ從フベシ

第十三條 從事命令ヲ受ケタル者ニ對スル給與ハ當該醫師又ハ齒科醫師ノ從事スル業務ヲ行フ官衙ノ長、地方公共團體ノ長、日本醫療團總裁又ハ指定事業者之ヲ支給スルモノトス

第十四條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ從事命令ヲ受ケタル者ヲ使用スル地方公共團體ノ長、日本醫療團總裁又ハ指定事業者ニ對シ從事命令ヲ受ケタル者ノ使用又ハ給料其ノ他ノ事項ニ關シ命令ヲ爲スコトヲ得

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ國民
醫療法第二十二條ノ規定ニ依ル從事命令ハ之ヲ爲サ
ズ

一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（未入營セザル
者ヲ除ク）及召集中ノモノ（召集中ノ身分取扱ヲ受
クル者ヲ含ム）

二 陸海軍學生生徒

三 陸海軍軍屬

四 醫療關係者徵用令ニ依リ徵用中ノ者

五 法令ニ依リ拘禁中ノ者

從事命令ヲ受ケタル後前項第一號乃至第四號ニ該當
スルニ至リタルトキハ從事命令ハ解除サレタルモノ
ト看做ス

第十六條 厚生大臣從事命令ニ關シ必要アリト認ムル
トキハ關係者ヨリ必要ナル報告ヲ徵スコトアルベ
シ

第四章 報酬及給與

第十七條 厚生大臣ハ病院若ハ診療所ノ開設者又ハ醫
師若ハ齒科醫師ヲシテ其ノ請求シ得ベキ醫療ノ報酬
ニ關シ醫師會又ハ齒科醫師會ノ定ニ依ラシムル命令
ヲ發スルコトヲ得

第十八條 厚生大臣又ハ地方長官ハ醫療ノ報酬ニ付適
正ナラザルモノアリト認ムルトキハ病院若ハ診療所
ノ開設者又ハ醫師若ハ齒科醫師ニ對シ之ガ變更ヲ命
ズルコトヲ得

第十九條 厚生大臣ハ醫師又ハ齒科醫師ノ給與ニ關シ
醫師又ハ齒科醫師ヲ雇備スル者ニ對シ必要ナル命令
ヲ發スルコトヲ得

第二十條 厚生大臣又ハ地方長官ハ醫師又ハ齒科醫師

ノ給與ニ付適正ナラザルモノアリト認ムルトキハ當
該醫師又ハ齒科醫師ヲ雇備スル者ニ對シ之ガ變更ヲ
命ズルコトヲ得

附則

第一條 本令ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ施行
ス

第二條 明治三十九年勅令第二百四十四號及大正十五
年勅令第十三號ハ之ヲ廢止ス

第三條 醫師法第一條第一項第一號又ハ齒科醫師法第
一條第一號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル私立

醫學專門學校又ハ私立齒科醫學專門學校ハ第一條第
一項第一號又ハ第二條第一項第一號ノ規定ニ依リ文
部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校又ハ私立齒科
醫學專門學校ト看做ス

第四條 左ニ掲グル者ニ對シテハ第一條又ハ第二條ノ
規定ニ拘ラズ從前ノ例ニ依リ醫師免許又ハ齒科醫師
免許ヲ與フ

一 本令施行ノ際現ニ醫師法第一條第一項第一號若
ハ第二號又ハ齒科醫師法第一條第一號若ハ第二號
ニ該當スル者

二 本令施行ノ際現ニ大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學
ヲ修メ又ハ醫師法第一條第一項第一號ニ掲グル醫
學專門學校醫學科若ハ齒科醫師法第一條第一號ニ
掲グル齒科醫學專門學校ニ在學スル者ニシテ引續
キ在學シ學士ト稱シ又ハ卒業スルニ至リタルモ
ノ

第五條 第一條又ハ第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ本令
施行後三年以内ニ醫師試驗又ハ齒科醫師試驗ニ合格
シタル者ニ關シテハ診療ノ修練ノ要件ハ之ヲ必要ト

セズ

第六條 本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ齒科醫師試驗
ノ受験資格ヲ有スル者及中學校若ハ修業年限四箇年
以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力
ヲ有スル者ヲ入學資格トスル修業年限三箇年以上ノ
齒科醫學科ニ在學中ノ者ハ第二條第三項ノ規定ニ拘
ラズ昭和二十七年十二月三十一日迄仍舊齒科醫師試驗
ノ受験資格ヲ有ス

第七條 學校齒科醫及幼稚園齒科醫令中左ノ通改正
ス

第三條第二項中齒科醫師（齒科醫師法第十一條ノ二
ノ規定ニ該當スル醫師ヲ含ム）ヲ「齒科醫師（國民醫
療法第八條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル醫師
ヲ含ム）」ニ改ム

第八條 醫療關係職業能力申告令中左ノ通改正ス
第二條第一項中「醫師法」ヲ「國民醫療法」ニ、「齒科
醫師法」ニ「同法」ニ改ム

第九條 醫療關係者徵用令中左ノ通改正ス
第二條第一項中「醫師法」ヲ「國民醫療法」ニ、「齒科
醫師法」ヲ「同法」ニ改ム

〔參照〕

明治三十九年九月十二日勅令第二百四十四號ハ醫師法第
一條第一項第三號ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件
及大正十五年三月十八日勅令第十三號ハ齒科醫師法第一
條第三號ノ資格ニ關スル件ナリ

國民醫療法施行規則の公布

國民醫療法施行規則は昭和十七年十月三十日付官報
を以て左の如く公布せられた。